

STEP-UP

平成27年度 第2号 3月
大田区幼児教育センター
幼児教育担当 (5744)1618

三学期もわずかとなり、進学、進級の時期を迎えました。小学校支援活動の中で、1年生が2年生へと着実に歩みを進め、新1年生を迎える準備に自信をもって取り組む姿を見ることができます。同様に、園児は近隣の小学校体験交流などを通して、入学を心待ちにしていることでしょう。

平成21年度から今まで、センター所員は、接続期の調査研究のために多くの大田区立小学校を訪問し、幼児教育の振り返りをとおして、接続期教育の在り方を考察してきました。今号では、様々な保幼小交流の取組と支援活動から分かったことなどを紹介いたします。

保幼小の「歩み寄り」の工夫

卒園を間近にした2月、多くの保育園・幼稚園では、年度末の保護者会を催して「就学前に大事にすること」を伝えるとともに、近隣の小学校長を招いて保護者の「就学に際して不安なこと、聞きたいこと」などの質問に答えることで、安心して子供たちを小学校に送り出せるようにしています。

小学校校長先生の講話 ～「就学を控えて：保護者の役割」～

<文部科学省の調査結果の一部紹介>

- ☆ こういう生活をしている子は学力が高い
- 朝ごはんを食べている子
(小学校に元気に出て来られるということ)
- 自分から挨拶できる子
- 「集団の決まりは守って当たり前」と思っている子
(「ルール」に対して「なんで守らなきゃならないんだよ!」と思う子では、集団生活は難しい)
- 家庭で団らんがある子
- 勉強には意味があると思っている子
(意味があると分かるから頑張れる)
- 学校であったことを話せる子

交流で出会った子供たちには、「元気に学校に来てね」と言っています。
入学すると、子供たちは「おはようございます。校長先生、来たよ〜っ!」と挨拶してきますよ。

<家庭に配慮してもらいたいこと>

- 子供が、「学校に行ったら楽しいことがある」と思うことが大事である。
- 入学前に字を書いたり、計算したりすることより必要なのは何か考えること。
- 子供が、何でも話せる場や時間をつくる。
・ 困った時、具合が悪い時、「どうしたの?」と聞かれた時に言葉で伝えられるように、また、「誰々にやられた。」と訴えてきたら落ち着くように、まず抱きしめて受け止め、話を聞いてあげる。
ただし子供は、自分に都合のいいことを言うこともあるので、後で担任に確かめることも必要である。
- 学区を一緒に歩き、安全な道や子供 SOS の家などを確認する。
- 朝、笑顔で送り出す。
・ 怒って学校に送り出さない。「先生に怒られるよ。」などと言うと、先生を嫌いになることもある。
- 宿題を、家庭の団らんにうまく活かす。
・ 1、2年生の宿題は、家庭内で話をする良い機会である。音読を聞いてやりながら、褒めたり、子供とのやり取りを楽しんだりして、「またやりたい!」という気持ちにすることが大事である。

講話の後、集団生活への不安を表した保護者からの質問があがった。校長先生からは「1学期が肝心です。担任との信頼関係を結ぶこと。困った事があれば、担任以外でも近くの教師や校長・副校長にも言ってみてください。必ず応えます。」など、心配なことがあれば遠慮なく相談してほしい、という答えをいただいた。このように、保護者会を通して小学校長に直接聞きたいことが聞けたことは有用であり、質疑応答が終わるころには就学に対する保護者の不安は解消したようである。

上記の小学校では、校長が近隣保育園・幼稚園の園長や保育者との交流を密に図っています。また、保幼小交流時には、園児の様子を見て積極的に関わりながら、学校全体で園児の入学を待っていることを伝えて安心感がもてるようにしています。

このような機会が、子供たち同士のより良い交流につながっていくと思われます。

～入学前の体験交流から～

交流を通して1年生は自分の成長を振り返り、園児は、小学校を身近に感じる経験となっています。先生方、保育者も1年間の成長を実感し、教育計画への位置付けを具体化する機関も多くなってきています。2月から3月にかけて行われた交流の様子を紹介します。

好きなお店に来てください!



昔遊び屋：
コマ回しのコマはペットボトルのキャップ。3種類の回し方をして見せ「どれやりたい?」と園児に聞き、教える1年生。楽しんだ後の手作りコマはおみやげになりました。



魚釣り屋：
「並んでください」「3分釣れます」「釣った魚は持ち帰れません」「大きい魚は一匹だけ」と説明を聞き釣りを楽しむ園児。沢山の園児の客に魚がなくなりその場で作り、渡す場面も…

的当屋：1年生が「この線からね」「惜しいな、もう少し強く投げてね」と丁寧に教える。「ピンゴが出るとメダルがもらえるよ!」の説明に園児は嬉しくなり、友達に伝え一緒に楽しむ。「やったね!」と拍手とメダルをもらう。



1年生になってみよう!

音読の様子を見る



ランドセル体験

さんすう屋：
手作りのすごろくで、カードに出た足し算を1年生と一緒に考え数えて進む。



ひらがな屋：
園児の名前を1年生が書き、それを見本にして、園児も1年生に見守られながら真剣に書く。



接続期に大事にしたい事 支援活動から捉えた保幼小の指導のつながり

- *子どもが心を素直に表し、自分なりの成長・発達を遂げていくために、安心・安定できる生活を保障する。
- *幼児期に心に刻まれた多様な体験は、小学校の学びの中で活かされている。
- *異年齢同士の交流は、年長児や1年生の力となり、自己有用感がもてる。
- *自ら成長しようとする力、友達の良さに気づき受け入れていこうとする力は、教師、保育者に見守られる中で育まれる。